

# 営繕のあゆみ'86





建築課長

上地 森 男

このたび、営繕のあゆみ第2巻を発刊することとなりました。

初巻において、不十分なが戦後40年間の営繕のあゆみを総括しておりましたので、今回から各年度の営繕業務を記録してゆくこととなります。

当年度は、また沖縄県の祖国復帰15周年目に当り、記念国体が開催されたことに鑑み、全県下に建設された体育施設と、数年次にわたって建設された沖縄コンベンションセンター第I期工事（大展示棟及び会議棟）を特集しております。

営繕行政が、時の移り変りと密接な関係にあることは、初巻の記録誌からもあまりに明瞭であります。これらの建築物も又、時代の要請に従って建設され、今後の社会文化と関わりつつその役割を果たしてゆくものと思われま。

このささやかな冊子が、今後の営繕行政の向上の一助となり、さらに県下の営繕業務の総合的な記録、又指標ともなりますようお願いいたします。

最後に、営繕行政に多大な御協力を下さいました皆様に深く感謝申し上げます。

昭和63年3月

## 目 次

1. 沖縄コンベンションセンター	
大展示棟・会議棟	2
2. 営繕関係(建築課)	
総務部	5
生活福祉部	7
環境保健部・商工労働部	8
農林水産部	9
土木建築部	11
3. 住宅関係(住宅課)	12
4. 病院関係(病院管理局)	15
5. 教育関係(教育庁施設課)	16
6. トビック	17
7. 国体関係施設	
沖縄県	19
各市町村	23
8. 参考資料	36
編集後記	40

# 1. 沖縄コンベンションセンター

(大展示棟・会議棟)

## 1. 施設計画について

このほど、沖縄コンベンションセンターの第1期建設工事が竣工し、昭和62年9月3日に落成式が行われた。

当施設は、経済・社会・文化の各方面における会議・集会・展示・スポーツ・演劇活動等を通じて人と物の交流がとみに活発になってきた近年の社会ニーズに応え、さらにそれを促進し、地域の活性化を図るために、復帰10周年記念事業の一環として計画された。

建設用地は、沖縄本島中部の宜野湾市地先の埋立地内の55,553㎡で、隣接してヨットハーバー・運動公園等が配置され、コンベンションゾーンが形成されている。又、那覇空港及び市街地からはおよそ10kmの距離にあり新設計画の国道58号線バイパス・湾岸道路(幅員50m)に接することになる。

当センターは、大展示棟・会議棟・劇場棟と、それらをつなぐ中庭池からなる複合施設で、真北方向の軸線上に会議棟を配し東西に大展示棟と劇場棟がそれぞれ配置されている。

大展示場は、見本市・産業展などの大規模展示会が開催できる施設で、屋内競技場としての利用も可能であり、又、集会や式典などにも利用できる5,000人規模の収容能力をもつ多目的ホールである。



会議棟は、30人から500人までの各種会議に対応できる会議室群で国際会議場としての利用可能な設備を有している。

第2期工事として今後建設される劇場棟は、延面積約9,500㎡で1,800の固定席を有し、コンサート・演劇等の開催の為、ハイグレードな舞台装置を備えており、又、県産品等の常設展示場も設置される予定である。

## 2. 設計主旨について

設計者・大谷幸夫教授はかねてよりこの施設の設計理念について語る時、「尤の沖縄戦に対する鎮魂歌としたい」旨、表明している。さらに復帰10周年記念事業というモニュメンタルな要素が施設の設計のキーワードとなっている。

### (1) 大展示棟・会議棟・劇場棟について

各棟はそれぞれ大展示棟=空、会議棟=海、劇場棟=洞をデザインのモチーフとしており、「空」は又、鳥や太陽でもあり、「海」はその中に棲む生物達であり、「洞」はその中に憩う人々でもある。沖縄の強い日射しを大鳥が羽根を広げることにより遮り、その下に人々が集う。海を眺望する会議場は亀に導かれた海底の世界=龍宮に

通じる。「人々を包み込むシェルターとしての洞」は、西に沈む夕陽を静かに受け入れる。

### (2) ルーバーライトの花束と突針の稲穂

石井幹子氏デザインのルーバーライトに取付けられた花束は、日々草(ハギ)をアレンジして、大屋根の下に集う人々に野の花を捧げるという意味である。花束は点検用ゴンドラを兼ねたものとなっている。その真上に位置する屋外の突針に取付けられた稲穂は神に捧げるものである。

### (3) 中庭池・バーゴラ

池は波紋が彩どられている。その中央の噴水は泉である。海の中にそのまま建物を建てたいという設計当初の思いが池として表現されている。水位を変えることによって池の形を数パターン変えることができる。水を全て上げれば広場としても利用できるようになっている。花卉を彩どったバーゴラの下で、屋外コンサート等の催しが可能である。

### (4) 玄関シーサーと屋根シーサー

この施設の規模に対して、玄関も相応のスケールを持った受け方が必要となる。沖縄の伝統的技術に裏付けられた石灰岩の石積は、重厚な門構えとしてふさわしい。魔除けとしてのシーサー



▲大展示棟全景

一は、沖縄の伝統的文化の一つとして定着しており、島外からのお客様を迎える時に、沖縄らしさを表現できるものとして適切である。ことに島常賀氏のシーサーは其の陶芸文化を代表する力強さを持っており、玄関に据えるにふさわしいものとなった。

### (5) コンクリートとレリーフ

展示場のアリーナと会議場ロビーの壁に打込まれたレリーフは、室内の仕上材料としてのコンクリートを表現する為の手法の一つである。無機質なコンクリートにも柔らかな人間の息吹を感じてもらえれば成功といえる。

レリーフの題材としては、紅型の伝統的なデザインを採用し、アレンジしている。

### (6) 吐水口

敷地の周囲を廻る水路は、隣接する宜野湾市の公園を経由して引込まれている湧水で、流水として吐水口を経て海へ流れている。水路は埋立て以前の海面の残象で、吐水口は海につながる道として象徴的にデザインされている。かつて、土地の人がこの海辺から参拝した竜神への道を汚さぬよう祈りの場を設けている。それは、埋立てに際して死に絶えた海の生物達への慰霊の意も表わしている。

### (7) 軒先風切金物

大展示場大屋根の軒先に付けられた風切金物は、銅板葺屋根のケラハを強風から保護する役目を担っている。デザイン上は、鳥の羽先のように屋根全体を軽く見せようとしている。尚、風切金物の中に散りばめられた色ガラスは琉球ガラスを用いている。会議棟についてもコンクリートの屋根でありながら軒先を軽く見えるように透かし模様を付けている。沖縄の建築職人の腕と意気込みによって成し得た労作となっている。



大展示棟内部





●会議棟及びパーゴラ(上)と大会議室内部(下)

(8) 琉球石灰岩としっくいレリーフ

会議棟ロビー正面を飾る琉球しっくいレリーフは、「家族」若しくは「友」を表している。大会議室の壁面は、琉球石灰岩としっくいによって仕上げられており、正面の紋章は波紋を表現している。又、会議場の扉に施した装飾は、黒真珠の母貝である黒蝶貝を用いている。

(9) 植栽・外構について

この敷地の気候条件は県内でも厳しい部類に属する。海岸に近く、冬の北東の季節風の影響をまともに受ける。この為、植栽に当たっては海浜性の耐候性の強い樹種に限定される。(オオハマボウ・コバテイシ・テリハクサトベラ等) 当面、フロンティアとして一次植生を作り上げることが目的となる。然る後、より多くの樹種・花木等を追加してゆけるよう計画している。

(営繕ニュースより転記)



## 2. 営繕関係(建築課)

### 総務部



名称：沖縄県庁本庁舎

所在地：那覇市泉崎1-2-32

工期：昭和61年10月1日～昭和62年1月9日

構造：鉄筋コンクリート造(5階建)

延面積：7,481㎡(塗装面積7,899㎡)

設計：仲間清宮一級建築士事務所

総工事費：27,250千円

施工：協沖興装美工業

新庁舎完成までの間、旧第二庁舎を本庁舎として使用するため、外壁の補修及び全面塗装と合わせて防水補修を行った。この施設は、昭和33年に建設された。

設計は建築課で、41,764.218B円で国場組により施工されている。当初は、RC造3階建1643.8坪(約5,434㎡)で造られ、その後、今の形に増築されている。



名称：那覇東町会館

所在地：那覇市東町1-1, 1-2

工期：昭和61年10月1日～昭和62年1月24日

構造：鉄筋コンクリート造(11階建)

延面積：3,072.526㎡(大ホール・中ホール・その他)

設計：南東設計工房

総工事費：28,596千円

施工：建築：玉義建設

電気：清電気工事社

機械：備大開設備工業

昭和61年度から県が管理を引き継ぐことになった建物の改修工事である。

初年度は大ホール関連から着手し、大ホール内部、ロビーを改修し、さらに、1階にシャワー室、洗面室、楽屋を設置し、従来2階にあった既設の楽屋と連続させるために両方を結ぶ屋内階段を増設した。



名称：沖縄県立芸術大学(附属芸術資料館・附属研究所)  
 所在地／那覇市首里当蔵向1丁目  
 工期／昭和61年8月9日～昭和61年10月7日  
 構造／鉄筋コンクリート造(3階建)  
 延面積／890㎡の内660㎡(2, 3階)改修  
 設計／沖縄県建築設計監理協同組合  
 総工事費／27,713千円  
 施工／建築：向金武組  
 電気：明興電気社  
 機械：三工設備

県立芸術大学は昭和61年4月に開学した新設大学で、年次計画に基づきその整備を進めている。大学敷地は、琉球王府の位置した首里城跡に隣接し、緑の多い恵まれた環境にある。昭和61年度の施設整備は、第1キャンパスの芸大附属・芸術資料館及び研究所(旧語学センター2及び3階を改修)、第3キャンパスの染織、デザイン棟(旧琉球大学女子寮棟改修)及び金工・木工棟(新築)である。芸術大学の専門教育施設としての特殊教室を、既存建物を改修して利用するため面積的にも充分ではなかった。設計は、これらの条件の中で、半屋外空間を最大限に見込み、付加的要素を加えることにより、解決を計った。



▲沖縄県立芸術大学(附属芸術資料館・附属研究所)

名称：沖縄県立芸術大学(染織・デザイン棟)  
 所在地／那覇市首里金城町3丁目番地  
 工期／昭和61年11月1日～昭和62年3月25日  
 構造／鉄筋コンクリート造(2階建)  
 延面積／2,630.534㎡(既設全面改修)  
 設計／宮平建築設計事務所  
 総工事費／191,365千円  
 施工／建築：樹下地建設  
 電気：大原電工株式会社  
 空調：御琉球冷機  
 衛生：沖縄水質改良所



▲沖縄県立芸術大学(染織・デザイン棟)

名称：沖縄県立芸術大学(金工・木工棟)  
 所在地／那覇市首里金城町3丁目番地  
 工期／昭和61年11月1日～昭和62年3月25日  
 構造／鉄骨造  
 延面積／352㎡  
 設計／宮平建築設計事務所  
 総工事費／33,256千円  
 施工／建築：弘建設機  
 電気：南嘉数電気工事  
 機械：水都商会



▲沖縄県立芸術大学(金工・木工棟)

名称：防災行政用無線鉄塔塗装工事(久米局・前田局)  
 所在地／(久米局) 中里村字比定原2238-35  
 ／(前田局) 浦添市真和志堂原1223-3  
 工期／昭和61年10月1日～昭和61年11月9日  
 構造／鉄骨造(既設再塗装)  
 塗装面積／1,707㎡  
 設計／土木建築部 建築課  
 総工事費／5,600千円  
 施工／(株)沖縄神洋ベイント

当施設は全島10ヶ所の防災行政用無線電話施設のうち2ヶ所である。当工事は、鉄塔部分の再塗装で、特に塩害、台風等の自然条件が厳しいため、防食系塗料には、変性エポキシ樹脂(下塗)、ポリウレタン樹脂(上塗)を用いた。



久米局▶

## 生活福祉部



名称：沖縄療育園第一病棟  
 所在地／浦添市椋塚714  
 工期／昭和60年10月1日～昭和61年7月26日  
 構造／鉄筋コンクリート造(2階建)  
 延面積／2,458.523㎡  
 設計／岡松田・陸設計事務所・横崎長設計JV  
 総工事費／100,465千円  
 施工／建築：旭建設機, 向新松組  
 電気：(株)大洋電気商会, 岡新流電工  
 空調：御琉球冷機  
 衛生：大宮設備, 向共和工業

当施設は、外来診療部門を備えた障害児施設であり、ナースセンターを中心に各病室が配置され、看護職員の動線、視線がいきとどくように配慮されている。



名称：身体障害者更生指導所アーチェリー場  
 所在地／那覇市首里石嶺町4-383  
 工期／昭和62年2月13日～昭和62年3月25日  
 構造／鉄筋コンクリート造  
 延面積／287.975㎡(施設4,378.925㎡)  
 設計／(株)唐真建築設計事務所  
 総工事費／37,400千円  
 施工／建築：向伊舎堂建設  
 電気：向泉水設備  
 空調： //

当施設は、住宅地に位置する身体障害者の利用を考慮したアーチェリー場である。

